

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第773号 平成26年7月22日

ジンギスカンの危機？

北海道を代表する料理といえば、まずジンギスカンを思い浮かべる方が多いと思います。

お花見の季節、桜の木の下で大勢の人がジンギスカンを楽しんでいる姿は定番の風物詩です。また、羊肉は、牛肉や豚肉を使った焼肉よりもカロリーが低いとされており、女性にも人気があります。

このように、道民にとっては馴染みのジンギスカン料理ですが、それが庶民の味から高級料理に変身するかも知れません。

というのも、ジンギスカンの主材料である羊肉の輸入価格が、このところ高騰しているからです。

このため、国内消費の8割を占める道内のスーパー等では、ジンギスカンに使うタレ付きラムの小売価格が昨年より3～4割値上げした店が多い（6月5日付日本経済新聞から）とか、6月に入って道内のスーパーではラム肉の平均小売価格が昨夏の倍に上昇している（6月3日付北海道新聞から）といった報道もあり、道民の1人としては心中穏やかではありませんね。

それでは何故、かくも輸入羊肉が高騰し始めたのでしょうか。

羊肉の主要な輸入先であるオーストラリアの生産者で作る豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）の集計によると、生産される羊肉の内54%が輸出に回されますが、輸出先の第1位は中国で約3万9500トン、2位はアメリカで約3万9200トンと続き、日本は7位で約7700トンだそうです。

また、日本の羊肉輸入量は、2006年の約1万2000トンをピークに下降傾向にあるのに対して、中国の輸入量は2004年の約9300トンから約4倍へと急増しており、羊肉の輸入価格の高騰の背景には、こうした事情もあるようです（6月4日付北海道新聞から）。

それにしても、北海道は日本有数の羊肉生産地の筈ですが、北海道を代表するジンギスカンが輸入に頼っていたというのは、いささか寂しい話ではあります。

ここで、北海道における「めん羊」の飼育状況等を見て置きたいと思います。

数字の羅列で頭が痛くなる方もいらっしゃるかもしれませんが、ジンギスカンという道民の食にとって大事な問題に関する事ですので、お許しいただきたいと思います。

めん羊の飼養戸数・頭数の推移

年次	全 国		北 海 道		
	飼養戸数	頭数	飼養戸数	頭数	本道の頭数割合
S32	663,300	944,940	129,100	257,600	27.3
H 3	2,500	30,300	820	16,900	55.8
H20	593	10,342	183	9,436	91.2
H24	909	19,977	212	11,226	56.2

北海道農政部資料「北海道のめん羊をめぐる情勢」から転用

めん羊肉生産量の推移

(単位トン)

年 次	S45	S60	H11	H15	H20	H21
全 国	154.3	143.1	133.7	100.7	127.8	143.1
北海道	33.1	58.6	68.8	67.9	91.5	112.8
道のシェア	21.5	41.0	51.5	67.4	71.6	78.8

農林水産省の「食肉流通統計」では、22年以降公表されていない。
北海道農政部資料「北海道のめん羊をめぐる情勢」から転用

羊肉の国別輸入量の推移

(単位トン)

年 次	S60	H11	H16	H20	H24
全国の輸入量	79,470	25,763	28,381	22,557	16,879
オーストラリア	30,217	14,420	15,835	15,844	11,152
ニュージーランド	48,866	11,130	12,435	7,602	5,653

北海道農政部資料「北海道のめん羊をめぐる情勢」から転用

羊肉自給率の推移

(単位トン、%)

年 次	H16	H18	H20	H21
国内生産量	96	81	100	112
輸出量	-	-	-	-
輸入量	26,114	30,073	21,784	21,641
国内消費仕向量	26,210	30,154	21,884	21,753
自給率	0.4	0.3	0.5	0.5

22年以降のデータなし。

北海道農政部資料「北海道のめん羊をめぐる情勢」から転用

さて、それぞれの数字とにらめっこをしていると、幾つか見えて来た事があります。

まず、「めん羊肉」の生産に関しては、北海道は依然として圧倒的なシェアを誇っていますが、「めん羊」の飼養戸数、頭数の推移を見ると、意外な数字が目につきます。飼養戸数や頭数の減少に歯止めがかかり、復活の兆しを感じられる一方、北海道のシェアが大きく下がっており、道外勢に勢いを感じられるのは、いささか心配です。

また、羊肉の自給率を見ると、オーストラリアやニュージーランドとは全く勝負

にならない事がよく分かります。

羊肉高騰の背景に中国の輸入急増がある事は確かですが、今後も、中国の輸入拡大は続くと考えなければなりません。

どの国でも、経済が発展し国民の所得が増えて行けば、少しでも豊かな生活を求めて消費が拡大していく事は当然です。中国は今や世界第2位の経済大国であり、かつ、人口は約14億人もいるのです。彼らの胃袋を満たすためには、ますます貪欲に世界中から食糧を買い集める事になるでしょう。中国が今後、食糧輸入国として世界の食糧需給に大きな影響を与える事は、否定できません。

巨大な胃袋を持つ中国が発する波動は、食糧の自給率が4割しかない我が国にとって、決して無縁ではありません。（塾頭：吉田 洋一）